

# 学力向上特配の活用の具体的なアイデア

東部教育事務所

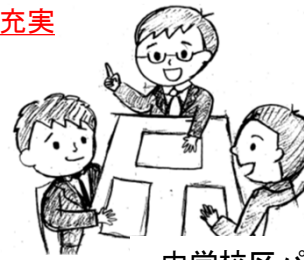
## (1) 中学校区や地域の連携による系統性を意識した教育活動の充実

- ・学特が小学校に兼務して、一部教科担当を受け持つ。(例)
- ・学特で生み出された時間を活用して、別の教員が小学校に兼務して一部教科担当を受け持つ。
- ・学特の兼務によるゆとりを活用して、小学校教諭が中学校へ兼務し、免外を解消する。
- ・学特の兼務によるゆとりを活用して、小小兼務を行う。

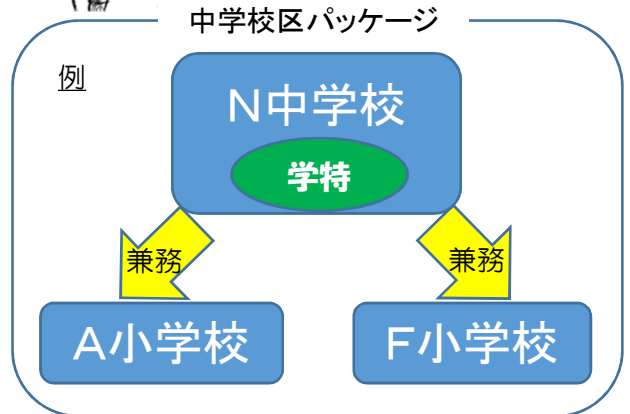
効果

- ・中学校区内の系統性、連続性のある教育
- ・地域の特色を生かした教育
- ・同じ中学校への進学に向けた共通の素地づくり
- ・免外を解消した専門性のある教育

教職員の特性の把握がカギ



校長先生同士の連携・協力がカギ



## (2) 小学校教科担当制及び専科指導による教科指導の充実

学特で生み出された時間を活用して、学年内や学年ブロックにおいて、一部教科担当制(専門性などの特性を生かした交換授業等)を行う。

効果

- ・分かる授業の提供と教員の授業力向上
- ・教材研究の充実
- ・組織的な指導体制の構築

きめ細かな指導の必要性がカギ

学力向上コーディネーターのリーダーシップがカギ

## (3) 学力向上のための組織的な取組の充実

学特を学力向上コーディネーターに指名し、授業参加、参観指導、示範授業を通して、組織的に学力向上に取り組む。特に、はばたく群馬の指導プランや活用力を伸ばす『評価資料集』を活用したり、全国学テの結果分析を授業改善につなげたりする。

効果

- ・教員の授業力向上
- ・計画的、継続的な学力向上

## (4) 実効性のあるきめ細かな指導の充実

31人以上の学級において、ねらい等に応じて少人数指導やTTなど指導体制を工夫する。

効果

- ・習熟度など、実態に応じた教育

先生方が笑顔でよりよい授業をするために・・・すべては子どもたちのため

※ 一人一人の持ち時数を減らし、授業準備の時間を確保するためのアイデア

- ・時数調整などによる少人数指導やTT指導は行わない。
- ・さくらプランや学力向上特配等による少人数クラス編制では、その効果や児童の実態を十分に考慮した上で、一人の担当者が標準的な人数以下で合同授業を行う。
- ・教科担当制を拡大することで、教材研究の必要な教科を減らす。
- ・いつでも授業が見合える雰囲気をつくり、OJTを効果的に行う。

実態に応じて検討してください。

